

基礎情報（子ども分野）

足立区の現状

- ・年少人口の割合は減少(20.3%(S60)⇒ 12.4%(H26))
- ・待機児童は322人(H27) ※保育施設定員数は年々増加(H14以降3,441人増加)
- ・学童保育は、定員が申請者数を上回っているが、一部地域で待機児童が発生。
- ・基礎学力が身につけている児童・生徒の割合は向上している
- ・児童扶養手当受給者数は20年前の約2倍(3,860人(H6)⇒ 7,335人(H25))
- ・高校中退者が多い。特に、入学後半年以内の退学が目立つ。

社会動向

- ・子どもの相対的貧困率は上昇傾向。大人1人で子どもを養育している家庭の割合が高い。
- ・若者の非正規雇用率は、全体と比べると低い水準。非正規雇用者の有配偶率が低い。
- ・高校卒業者の4.9%、大学卒業者の13.6%は進学も就職もしていない。

現行基本構想に対する区の実施等

- ・「子どもの貧困対策本部」を設置し、貧困の連鎖を断つための取り組みを充実。
- ・「足立区待機児童解消アクションプラン」に基づく、待機児童対策の推進。
- ・基礎学力の定着・向上に向け、きめ細やかな学習指導と教員の授業力向上を推進。
- ・「おいしい給食」による残菜率の低下。
- ・H27よりスクールソーシャルワーカーの配置など、不登校対策を充実。
- ・H27に「教育大綱ビジョン」を策定し、H28に「教育振興計画」を策定予定。

第1回～第3回審議会でもいただいた意見

【現状】

★子ども分野

- ①就学援助は他自治体より多く、児童扶養手当の対象となるひとり親も増加。
- ②親による虐待や仲間どうしのいじめが多い。親の代からの心の教育が必要。
- ③子どもの貧困対策、居場所づくり、ネグレクト等に取り組む善意ある方と行政とが結びついていない。
- ④将来キーパーソンとなる高校生の中退者やニート、フリーターが多く、その背景にある家庭状況も踏まえた対策が必要。
- ⑤待機児童対策の施設整備が後追いでは後手に回る。
- ⑥保育料が安いと若い世代が集まる傾向にある。
- ⑦区外から移り住んできた子育て世代が大勢いることに着眼すべき。
- ⑧学校は三学期制が良いという方も多い。
- ⑨現在の基本構想は「子ども分野」が意外に薄い印象がある。新基本構想では枠組みが変わるのではないか。

★4専門部会共通の内容

- ①高齢化や失業率等の日本全体や都の課題と足立区単独で対応可能な課題とを切り分けるべき。
- ②基本構想を考えるうえで、人口推計や30年先の国のデータ、区の考え等を知りたい。
- ③区民ニーズは、世論調査的なものだけでなく、審議会としてのデザインができた段階で区民に意見を聴いたらどうか。意見交換会（討論会）を検討してはどうか。
- ④いろいろな施策が成果を挙げている反面、もう少し力を入れてもよさそうなものもある。
- ⑤インフラ面に力を注いでも人間の心の教育がなっていなければ、今後、さらにひどい状況になるのは必至。本来、家庭で代々受け継がれるべきこと。
- ⑥今回、無作為抽出かつ世代別に意見交換会を実施したのは良い。今後もいろいろな意見を反映していく仕組みを生かしてほしい。

【将来の課題】

★子ども分野

- ①区として高校生世代にどのようなサポートができるか考えていく必要がある。
- ②同じ保育の定数でも、ニーズに合ったものを整えていくことが必要。
- ③若い世代が自立して仕事が出来、活躍でき、居場所があることが重要。
- ④学歴志向だけではなく、中退しても足立区の発展に貢献できる人材を育てるような視点が必要。
- ⑤小さい頃から、大学進学以外の多様な進路を伝えていく職業教育が重要。
- ⑥「職人のまち」など、中退者も技術を持って活躍・貢献できる基盤を整えることが必要。
- ⑦学力や保育については、質の問題も課題である。

★4専門部会共通の内容

- ①20歳代の転入増を分析のうえ、担税力のある若者を転入させる施策が重要。
- ②区の北東部の都営住宅では、低所得の外国人も多く、言葉の障害もあり学力水準の低下が著しい。国が移民を受け入れる時代を先取りし、住宅政策や学力向上の支援策を検討したい。
- ③ヒト・モノ・カネには限りがあるので優先順位をつけて計画を立てなければならない。
- ④基本構想は、区民に分かりやすいメッセージ、スローガンにして、伝わるようにすべき。
- ⑤人の力、人の良さを生かす足立区であって欲しい。
- ⑥成果を挙げてきた施策も、継続的な努力をしないと後戻りする。絶えず施策・事業を厳しく見直し、新たな視点・アイデアも取り入れ向上に努めてもらいたい。
- ⑦基本構想策定の目的は、「住んでみたい足立」を協働により築き、その将来像は「住んでよかった足立」をめざすことではないか。
- ⑧財政の見通しを踏まえ、どんな区づくりを進めていくのか、将来のシナリオについて数パターン示す必要がある。